

第30期町田市文化財保護審議会第7回会議 会議録

- 1 開催日時 2020年11月24日(火)
午前10時00分～11時30分
- 2 開催場所 町田市役所本庁舎3階 第1委員会室
- 3 出席者 委員 阿諏訪青美委員、阿部朝衛委員、内野秀重委員、小島政孝委員、
鶴巻孝雄委員、浜田弘明委員、八木橋伸浩委員
事務局 中村生涯学習部長、佐藤生涯学習総務課長、貴志担当課長、
宮本自由民権資料館係長、後藤主任、松崎主任、後藤主事
- 4 報告事項
 - (1) 「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」に関する専門的知見からの助言について(報告)
 - (2) 東京都指定有形文化財「異形台付土器」特別公開について(実施報告)
 - (3) 考古資料の活用等について(報告)
 - (4) 「多摩郷土誌フェア」の開催中止について
 - (5) 「文化財防火デー」について
 - (6) 町田市国史跡高ヶ坂石器時代遺跡整備検討委員会第13回会議の開催について(報告)
 - (7) 自由民権資料館リニューアル記念第2弾・2020年度第2回企画展「町田の民権家たち」の実施について
 - (8) 自由民権資料館 動画配信について
 - (9) 自由民権資料館 出前講座の実施について
- 5 議題
 - (1) 旧跡の指定・登録について(鎌倉古道)
- 6 その他
 - (1) 次回の審議会について(2月中旬開催予定)
 - (2) 第31期委員の継続のお願いについて

<配布資料>

- 会議資料
- 1 報告事項
 - 2 「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」に関する専門的知見からの助言について(回答)

- 3 「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」生涯学習審議会
答申（本文）写し
- 4 旧跡の指定・登録について
- 5 自由民権チラシ4種
「町田の民権家たち」「村野常右衛門生家の紹介」「出前講座 in 鶴川」
「出前講座 in 成瀬」

■ 前回議事録の確認

事前に送付した議事録を確認・承認していただき、確定とした。

■ 報告事項

- (1) 「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」に関する専門的知見からの助言について（報告）

前回、第6回審議会において、生涯学習審議会からの依頼で「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」に関しての専門的知見からの御意見をいただきました。その御意見をまとめ、10月7日付で生涯学習審議会へ回答したものが資料2です。

この回答を受け生涯学習審議会では10月26日の第4回会議で審議し、11月17日に教育委員会へ答申を提出しました。資料3が答申の写しで、下線を引いた部分にいただいたご意見が反映されています。

<文化財保護審議会の意見が答申に反映された部分のまとめ>

文化財保護審議会からの意見		反映された部分
①歴史資料の収集・保存・整理及び調査・研究について	名称の変更	改称あるいは愛称やキャッチコピーを検討する
	資料の公開、提供や研究結果の発表の場をつくる	町田市域の歴史の研究成果を発表できるような図書の刊行 地域の学びの場での講師、展示案内係などを依頼できるような体制づくり
	自由民権の専門資料館の機能を維持しつつ、歴史と民俗を融合したスタイルの確立	全国で3館しかない自由民権を冠した施設であるというブランド力を活かす 考古資料や歴史資料、民俗資料の一体的な活用

②運営する上での専門性の継承について	知識の継承や地域住民との関わり方の継続の重要性、学芸員の専門性の継承	学芸員の専門的な技能・知識がより効果的に事業に活かされるよう、事業内容や手法の見直しが必要
		専門性をしっかり継承していく
		高度な専門性はもとより、地域住民との関係性を維持し続ける
		(民間活力導入など) 経済的効率化の視点だけでなく、導入例をしっかりと検証し、新しいものを生み出すという発想で慎重に進めていく

委員の先生方には様々な御意見をいただき、大変参考となりました。ありがとうございました。

(2) 東京都指定有形文化財「異形台付土器」特別公開について（実施報告）

10月25日と11月8日の日曜日に、展示に併せて展示解説を行いました。参加人数は、資料1の表のとおりです。新型コロナウイルス感染対策のため、参加人数を抑え事前予約制で開催しましたが、当日参加の方もあり好評に終わりました。

(3) 考古資料の活用等について（報告）

参加人数は、資料1の表のとおりです。ふれあい桜館とふれあいもみじ館は高齢者福祉センターです。特にふれあいもみじ館での講演会は事前申込みで定員30名のところ、当日参加の方も含めて40名ほどの参加がありました。

(4) 「多摩郷土誌フェア」の開催中止について

多摩地域の市町村が刊行した郷土史に関する書籍等を販売している「多摩郷土誌フェア」ですが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となりました。今後、事務局で各市町村の新刊データをまとめCDを作成する予定です。

(5) 「文化財防火デー」について

今年度は2021年1月31日（日）に箭幹八幡宮で行う予定です。

(6) 町田市国史跡高ヶ坂石器時代遺跡整備検討委員会第13回会議の開催について
(報告)

2020年11月13日(金)に開催しました。会議の前に現地の視察も行い、委員として阿部先生と小島先生にも御出席いただきました。

(7) 自由民権資料館リニューアル記念第2弾・2020年度第2回企画展「町田の民権家たち」の実施について

10月24日から来年3月28日までの131日間、企画展を開催しています。新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度に予定していた特別展を変更し、当館の収蔵史料を紹介する展示を企画しました。また、3月に改修工事を終えたことから、リニューアル後の記念企画第2弾として、町田市域を代表する4人の民権家、石坂昌孝、青木正太郎、村野常右衛門、細野喜代四郎の事績や関連する史料を紹介しています

(8) 自由民権資料館 動画配信について

自由民権資料館の開館記念日11月3日に、毎年「資料館まつり」を開催していましたが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため中止になりました。その代わりとして動画配信を実施し、「町田の民権家 村野常右衛門生家の紹介」と「薬師池の歴史資源を見に行こう」の2本を配信しています。視聴は、町田市ホームページ、自由民権資料館の公式Twitter、You Tubeからも検索できるようになっています。

(9) 自由民権資料館 出前講座の実施について

自由民権資料館では、会場が狭いため現在講座を中止しております。そのため、ソーシャルディスタンスを確保できる市民センターの会議室など、市の施設を会場にしての講座を企画し、各地域に出向くことで市民が市域の歴史を学ぶ機会を提供する「出前講座」を開催します。

12月5日に「原文で読む村野日誌」(鶴川市民センター)、12月6日「成瀬の日露戦争従軍兵士・中里好治」(成瀬コミュニティセンター)を開催します。出前講座は3月にも実施する予定です。

●委員からの質疑・意見

「今後の町田市立自由民権資料館のあり方について」に関する専門的知見からの助言について(報告)

委員 13ページの「運営体制」のところで、「民間活力の導入を含めて運営体制を検討する」とあり、その上に「広報業務などの一部の業務については、委託する」と書かれていますが、これは管理部門まで及ぶような大きい委託ではなく、一部委託ということなのでしょうか。

事務局 策定に向けて、今後、教育委員会や協議会などのプロセスを進めてまいります。その方針案を作っていく中で、運営体制等についても議論を重ねていくこととなります。現時点では、指定管理のようなことは想定しておりませんが、一部委託というようなことを視野に入れて考えていきたいと思っています。

自由民権資料館 動画配信について

会長 配信されている映像はどのように制作されたものですか。

事務局 学芸員が史跡を案内していく様子をカメラで追っていくような内容です。初めての試みなので、今後は様々な技術を習得してよりよいものにできればと思っています。

■議題

(1) 旧跡の指定・登録について（鎌倉古道）

◆事務局からの説明

9月の審議会では、(通称)鎌倉井戸の史跡を解除し、旧跡として改めて指定、鎌倉古道については、鎌倉井戸の名称はそのまま残し、古道の名称もつけ加えるということになりました。

それについて事務局から、史跡の解除、旧跡の指定ではなく、種別の変更、及び名称変更という形を提案します。以前、東京都の指定文化財で「旧跡・下三輪横穴」を「史跡・下三輪玉田谷戸横穴墓群」に変更した事例がありますので、同じような形でできればと考えています。

種別の変更は、史跡から旧跡へ。名称の変更は「(通称)鎌倉井戸」から「鎌倉井戸」に「古道」をつけ加える形です。「鎌倉井戸」の前には、これまでの審議会で提案されたものを挙げていきますと、頭に何もつけないか、「伝」もしくは「通称」、「鎌倉井戸」の後には、「鎌倉古道」「鎌倉道」「鎌倉街道」など、さらに「推定地」「擬定地」「伝承地」などが挙げられます。

資料4、2ページ目が変更概要、3ページ目が現状の鎌倉井戸の写真と天和2年の野津田村の絵図です。

●委員からの質疑・意見

会長 本日は、名称をどうするか議論となります。「伝」か「通称」をつけ、あとは、括弧内、道の呼び方をどうするか、さらに「推定地」「擬定地」「伝承

地」と様々な表現がありますが、この辺の御意見をいただきたいと考えています。

それから、「内容」「変更理由」等の説明文もございますが、これについても、もし修正があれば御意見をいただきたいと思えます。

委員 この近辺で唯一、鎌倉古道を指定している国分寺市の名称は何だったでしょうか。

事務局 国分寺市は「伝鎌倉街道」で、指定部分は市の重要史跡になっております。

委員 小山田の里が小野路宿と考えられるというのは、これは考証としては大丈夫ですか。今まで1度も議論された感じがしませんが。

委員 今の質問と併せて、本日の議論はこの2ページ目の内容の記述に関しても詰めていくということですか。

事務局 現在指定されている鎌倉井戸には、指定の定義、意義について説明はございませんので、今回はそれを明確にしていきたいと考えています。

委員 「内容」の2段落目で、「鎌倉時代に整備された幕府のある鎌倉と各地を結んだ道路網」というのは、鎌倉時代に整備されているという記録は特にないはずなので、「幕府のある鎌倉と各地を結んだ道路網の総称」としていただきたい。

会長 小山田の里に関してはいかがでしょうか。

事務局 小山田の里を小野路の宿としているのは、一番古い資料が昭和7年の「武蔵野歴史地理」で、それ以降、小山田の里を小野路の宿と捉えている文献が多くなっています。

委員 鶴川の村誌などがそれを受けて、小山田の里というのは小野路というふうに言っているようです。小野路の可能性が高いことは事実ですが、小山田の里はイコール小野路だと断定的に言っているのでしょうか。

会長 今の御意見ですと「小山田の里が小野路町の小野路宿である可能性が高い」といった表現のほうが無難ということですね。

指定名称についてはいかがですか。

委員 「鎌倉井戸」以外の名称では呼ばれていないようですので、「伝鎌倉井戸」などが、個人的にはいいと思えます。

名前は、「鎌倉街道」を使うと、現在の道と混同してしまいますし、当時は「鎌倉道」と呼んでいたと思いますが、今の時代から見ると「鎌倉古道」みたいな言い方、そして、「推定地」がいいのではと思っています。

委員 私も「伝鎌倉井戸」でいいと思えます。道の名前については、いずれも後からつけられた名称ですので、「鎌倉街道」が紛らわしいという意見が多いのであれば、その上の2つなのかなと感じています。また、最初に「伝」とつけるのであれば、最後が「伝承地」ですと重複しますので「推定地」か、ただ、伝承を基に指定することを考えると「伝承地」ではないかとも思います。

委員 「伝」「通称」、頭にどちらをつけるかによって最後の道のほうの「推定地」であったり「伝承地」であったり、その表現とかぶらないようにというところも配慮が必要だと思います。「街道」につきましては、やはり現在のものとの混乱を避けるということを考えると、「古道」か「鎌倉道」だと思います。

委員 現在の鎌倉街道と紛らわしいとすれば、「鎌倉古道」か「鎌倉道」となります。「古」が、鎌倉時代にさかのぼるという意味合いとすると「鎌倉古道」の方が、時代性があっていいと思います。

鎌倉時代の井戸という意味合いで「伝鎌倉井戸」、それから「鎌倉古道推定地」または「擬定地」でもいいと思います

委員 まず「鎌倉井戸」ですが、「通称」ですと歴史性みたいなものが削ぎ落とされてしまうので、やはり「伝鎌倉井戸」がいいと思います。

道については、やはり「鎌倉街道」とすると現代の鎌倉街道と紛らわしいので、これは除外するのがいいと思います。では、「古道」か「道」かですが、一般の人から見ると「鎌倉古道」では漠然とした、場所が特定されないようなイメージで、「鎌倉道」の方がある場所を特定しているような感じがします。そうすると、その後の言葉というのは、「鎌倉古道」だったら「伝承地」で、「鎌倉道」だったら「推定地」という組み合わせになるのではと思います。

委員 道については「鎌倉古道」だと思っています。「鎌倉道」というのは、多分近世に使われ、「鎌倉街道」は近代以降、江戸時代にないわけではありませんが、地方の道路に「街道」を使うというのは、あまりありません。となると、それ以前の中世の道という意味では、一般的に使っている「鎌倉古道」のほうに分かりやすく、さらに古道ファンという古い道を歩きたいと思っているような人の感情ともつながります。

会長 今まで出てきた御意見の中では、道の名前については「古道」のほうが有力という印象を受けております。「鎌倉井戸」の前に「伝」とするか「通称」とするかで後ろが「推定地」か「伝承地」になると思われます。

今までの意見を総称して考えると、「伝鎌倉井戸（鎌倉古道推定地）」という形でしょうか。改めてご意見をいただければと思います。

委員 井戸については、伝承に基づいているという所を強調して「伝鎌倉井戸」、道については、江戸初期の絵図の中で確認が推定できるということと、史跡からリニューアルしたという印象を持ってもらうために「鎌倉古道推定地」というのがいいという印象です。

委員 私も「伝」がついているのが伝承を強調する言葉としていいと思いますし、「古」という字が入るのも、これを好む市民の方々には訴えるものがあると思います。

- 委員 「内容」の説明が義貞の鎌倉攻めの話から始まっていますが、その後、伝承として鎌倉時代の井戸だと伝えられているということをもう少し明確にして、なぜ「鎌倉井戸」なのか、市民への説明となる必要があると思います。
- 会長 何か具体的に良い表現はありますか。
- 委員 例えば「鎌倉井戸と呼ばれる井戸があり、鎌倉時代から続く古井戸だと伝わっている」として、「とりわけ元弘3年、新田義貞が鎌倉攻めの際に」というような表現はいかがでしょうか。
- 委員 2段落目の「小山田の里と井手の沢がそれぞれ菅原神社付近、小野路宿と考えられる」の部分は、「推定される」や「と言われている」と少しぼかした表現にして、その前の「町田市には上道と呼ばれる主要道路が通っていた」の部分を「考えられている」ではどうでしょうか。また、その段落の最後の「いつしか新田義貞の事績と結びつき、中世を想起させる伝承地」は、「想起させるようになった」や「想起されることになった」とすればいいと思います。
- 会長 「内容」や「変更理由」の道の名前ですが、「鎌倉道」でもいい感じはします。場所によって「古道」にするか、「鎌倉道」にするか、少し変えたほうがいいのかもかもしれません。
- 委員 「変更理由」の2行目ですが、鎌倉時代の井戸だから鎌倉井戸なのではなく、「鎌倉井戸の名前は鎌倉道の傍らにあることから名付けられたと想定される」と言い切ってしまうようだと、「内容」との整合性が気になります。
- 委員 伝承に基づいているということ、いくつかの点からまとめていって、市内には「鎌倉道」と想定される場所が数多くあるが、いずれも資料から断定することは難しい、でも、井戸に関しては地域の人々の思いと伝承があるということと、近世の絵図に記されたという記載から、今後は名称に「鎌倉古道推定地」というのを付け加えた上で、旧跡として変更することが望ましいというような、肉づけが必要ではないかと思います。
- 会長 確認ですが、この「内容」や「変更理由」について、今日、おおむね決めたほうがよろしいのでしょうか。
- 事務局 次回の文化財保護審議会に諮問をさせていただくために、できればある程度、決めていただければと考えています。
- 会長 では本日の意見をまとめて、次の会議までにメール等で文章を各委員に確認して教育委員会に出す、という流れでよろしいですか。
- 事務局 では、次回委員会までに各委員の皆様に調整のメールをさせていただきます。
- 会長 とりあえず名称については、「伝鎌倉井戸（鎌倉古道推定地）」という形で落ち着いたのかなと思います。残りの「内容」と「変更理由」については、先ほど御指摘のあった部分を訂正の上、最終的には提出文章を皆さんに確認してもらった上で教育委員会に出すような形を取っていきたいと思います。

それでは、今の意見に基づいて事務局で修正を加えていただき、後ほど、また各委員に御覧いただくという形で進めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

■その他

◆事務局より

(1) 次回の審議会について（2月中旬開催予定）

次回の審議会は2月中旬の開催を予定。後日、事務局から日程調整の連絡をする。

(2) 第31期委員の継続のお願いについて

第30期文化財保護審議会委員の任期は2021年5月までとなっております。第31期についても委員の継続をお願い致します。近日中に依頼の書面をお送りします。